湯日川水系河川整備計画【原案】

概要図　静岡県

河川整備の基本理念

陸・海・空の交通ネットワークの要衝として利便性が向上し、賑わいの創出や地域の活性化を期待されている。このことを踏まえ、洪水、津波や土石流などの災害による被害の防止または軽減を図るとともに、地域住民にとって身近なうるおいのある水辺空間の創出に取り組むことにより、安心・安全で地域に親しまれる憩いの場となる川づくりを目指す。

○災害に強く、安全で安心な地域づくり
○河川を軸とした魅力のある地域づくり

案作成までの経緯

- 第1回流域委員会【令和元年11月25日】
  - ●現地視察
  - ●流域及び河川の現状と課題
- 第2回流域委員会【令和2年3月24日】
  - ●治水対策
- 第3回流域委員会【令和3年12月17日】
  - ●利水、環境・地域との関わり
  - ●河川整備計画【原案】
- 第4回流域委員会【令和3年3月○日予定】
  - ・整備計画【修正原案】

河川整備計画（素案）→ 河川整備計画（原案）→ 河川整備計画（原案）→ 河川整備計画（案）

- アンケート調査【平成31年2月】
  - ・配布：計1,000人
  - ・有効回答数：602人(60.2%)
- 県民意見募集【令和4年1月～2月予定】
- 関係機関意見聴取【未定】
  関係首長意見聴取【未定】

河川整備の目標

整備対象期間　今後、概ね20年間（必要に応じて見直しを行う）

洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

○流域内の人口や資産などや重要度、過去の水害の発生状況やその後の河川整備の状況及び現状の整備状況を踏まえ、時間雨量64mmの降雨（年超過確率1/10程度）による洪水を河道内で安全に流下させることを目指す。浸水被害が発生した支川からの洪水を流せるよう湯日川の改修と併せ、関係市町と連携し、試水被害の軽減に取り組む。
○堤防や護岸等の河川管理施設において、常に所定の機能が保たれるよう適正な維持管理に努める。
○計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を超える洪水・高潮等の発生に対しては、危険個所の周知、要配慮者対策への支援、情報提供などのソフト対策を推進するとともに、被害リスクを流域住民に周知することで地域防災力の向上に努める。
○「計画津波」に対しては、海岸・港湾等における防御と一体となった施設整備により津波被害を防御するものとする。「最大クラスの津波」に対しては、住民等の生命を守ることを最優先とし、島田市及び吉田町との連携により、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせた津波防災地域づくり等と一体となって減災を目指す。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

○河川流況の把握に努め、農業用水などの既存の水利用、動植物の生息・生育・繁殖環境、景観などに配慮しつつ、流域住民や関係機関と連携を図りながら、適正な水利用が行われ、河川の持つ多面的機能が十分に発揮できる環境の維持を目指す。

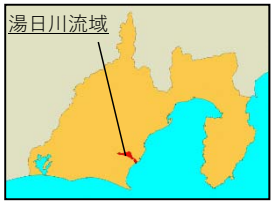
河川環境の整備と保全に関する目標

○多様な動植物が生息・生育・繁殖している湯日川の自然環境を踏まえ、現況の土砂移動形態や滑翔の改変に対して最大限配慮し、河川環境の保全に努める。
○動植物の生息・生育・繁殖環境の連続性を確保するため、流水の変化、河床材料の保持、適正な植生管理などに配慮し、河川が有する自然の営力を活用して河川本来の多様な動植物が生息・生育・繁殖している水辺環境の保全に努める。
○水質については、引き続き吉田町、島田市や関係機関及び地域住民と連携し、汚濁負荷量の更なる削減を働きかける。

地域との関わりに関する目標

○河川愛護の精神がさらに広がり、愛され続ける川を目指す。
○日常的な利用状況における施設整備を望む声が多いことから、市町や流域住民と連携し、より良い河川空間の整備を目指す。
○島田市、吉田町のまちづくり施策や取組と密接に連携し、安全・安心で地域に親しまれる憩いの場となる川づくりを目指す。

流域の概要



流域面積	25.8㎢
幹線流路延長	約15.9km
関係市（人口）	島田市（約9.7万人） 吉田町（約2.9万人）

治水に関する現状と課題

【現状】
○平成25年洪水、令和元年の台風19号による洪水など、周辺に比べて地盤が低い地区や、本川に流入する河川や水路等の整備が遅れている箇所などで内水被害が発生している。
○中流から下流には築堤区間が続いており、人口や資産が集中していることから、堤防の決壊などを伴う水害が発生すると社会的影響は大きい。
○主に築堤区間に位置する低平地部では、洪水時に湯日川の水位が高くなることで、支川等からの流水が滞り、排水不良が生じる地形的要因を有している。

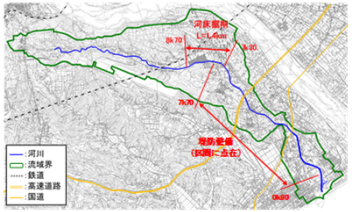
【課題】
○当面の河川整備は目標とする流量を安全に流下させるため、河床掘削などによる河川改修を行い、治水安全度を確保するとともに、あらゆる関係者が連携して浸水被害軽減対策に取り組む必要がある。

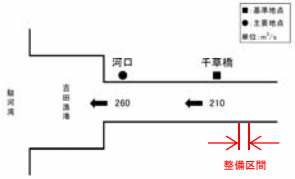
発生年月日	気象名	浸水家屋（戸）	浸水家屋（戸）		1時間雨量		2時間雨量		備考
			床上	床下	雨量(mm)	確率評価	雨量(mm)	確率評価	
昭和13年8月2日～3日	豪雨	不明	－	－	34	1/2以下	53	1/2以下	御前崎雨量
昭和52年5月11日～21日	豪雨と風浪	15	0	15	37	1/2以下	－		水害統計
昭和57年9月10日～13日	豪雨と台風18号	70	12	58	91	1/60程度	162	1/100程度	被害調書(島田市)
		900	不明						AB表記載
平成14年7月10日～11日	梅雨前線豪雨と台風6号	1	0	1	31	1/2以下	52	1/2以下	水害統計
平成16年10月8日～9日	台風22号及び豪雨	25	0	25	49	1/3程度	79	1/3～5	被害調書(吉田町)
平成16年11月11日～12日	豪雨	3	0	3	87	1/80程度	116	1/20程度	被害調書(吉田町)
平成25年4月6日～7日	豪雨	43	1	42	63	1/10程度	105	1/10～20	被害調書(吉田町)
令和元年10月11日～12日	台風19号	30	10	20	48	1/3程度	87	1/5程度	被害調書(島田市・吉田町)

河川整備の実施に関する事項

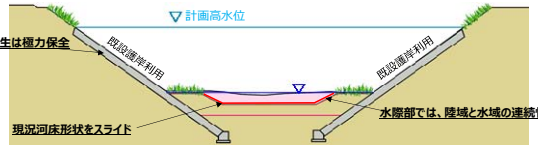
区分	河川名	区間又は地点	延長	主な整備内容
河川改修	湯日川	7k30 ～ 8k70	1.4km	河床掘削
		0k80 ～ 7k70（点在）	-	堤防整備

【河川整備計画の主要な整備箇所】





改修後イメージ



——：河川整備基本方針河床高，——：河川整備計画河床高

【河川の維持】
河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、治水機能の確保のほか、河川のもつ多面的機能が十分に発揮されるよう、島田市や吉田町などの関係機関や、地域住民と連携を図りながら、河川パトロール等の適切な維持管理に努める。
(1) 堤防及び護岸等の維持管理
(2) 河道内堆積土砂及び植生等の維持管理
(3) 樋門・樋管等の河川工作物の維持管理
(4) 水量・水質の監視等
(5) 河川環境の整備と保全

【その他総合的な取組み】
○整備計画目標を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を上回る洪水が発生した場合、また、想定を上回る津波や高潮が発生した場合においても、出来るだけ被害の軽減が図られるよう、関係機関や流域住民との連携を強化し、地域の防災力の向上に努める。
○静岡県がウェブサイトや携帯サイトで公表している土木防災情報システム「SIPOS RADAR（サイポスレーダー）」（平成27年6月更新）の周知を図り、流域の雨量・河川の水位情報や地震情報・津波予報等の発信を通じて、地域の実的な防災活動に役立ててもらうよう島田市や吉田町に働きかける。また、雨量計・水位計の新設や情報の充実、システムの高度化に努めていく。
○水防活動や洪水ハザードマップの活用、それに伴う危険個所の周知、流域住民へのきめ細かい防災情報の伝達、洪水や津波等の災害発生を想定した避難訓練、災害時要援護者対策、適正な土地利用への誘導等の対策など、被害軽減対策の推進を島田市及び吉田町に働きかけていく。
○地域住民との連携、地域活動への支援
○大規模氾濫減災協議会等による関係機関との連携

水利用に関する現状と課題

【現状】
○農業用水として許可水利はなく、慣行水利41件が設定され、約370haのかんがいに利用されている
○近年は、渇水被害の報告は確認していない。
○内水面漁業権は設定されておらず、沿岸・河口では、吉田町しらす鰻採捕組合によるシラスウナギ漁が行われている。

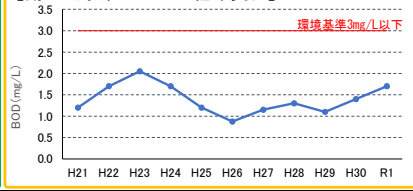
【課題】
○流況の把握に努め、地域住民や関係機関と連携して流水の適正かつ合理的な利用に努める必要がある。

河川環境に関する現状と課題

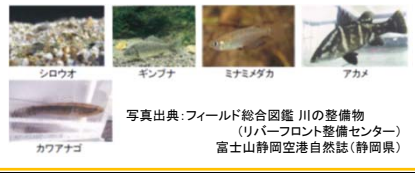
【現状】
○環境基準はB類型に指定されており、公共用水域水質調査結果（平成21～令和元年）では、環境基準で定められた値をすべて満足している。
○魚類は、下・中流では汽水魚を含め多様な魚類相が見られ、特に感潮区間ではシロウオ（絶滅危惧ⅠＡ類（ＣＲ））が確認され、汽水魚に加えアユ等の回遊魚が多くみられる。中流の堰の湛水区間ではギンブナ、瀬を産卵場とするオイカワやアユ等、ツルヨシなどの抽水植物があるところではミナミメダカ（絶滅危惧ⅡＡ類（ＶＵ））が確認されている。

【課題】
○今後ますます流域内で市街化が進む可能性を踏まえ、河川の水質維持、改善に向けて、関係市町と連携して、地域住民などの関係者に河川の水質の維持や改善に向けた啓発などを行っていくことが重要である。
○多様な生物の生息・生育の場が形成されており、これらの環境を保全していく必要がある。

【湯日川水系ＢＯＤの経年変化】



【湯日川水系の希少種（魚類）】



写真出典:フィールド総合図鑑 川の整備物（リバーフロント整備センター）
富士山静岡空港自然誌（静岡県）

地域との関わりに関する現状と課題

【現状】
○親水公園（湯日川親水公園・湯日谷川公園）が整備されて地域住民が身近に河川と触れあう空間となっている。一方、住民アンケートでは水辺に近づける親水護岸や日常的に利用できる遊歩道やジョギングコースの整備を求める声もある。
○静岡県では県管理河川において、河川空間の除草・清掃等の美化活動を行う地域の河川愛護団体を支援するため、関係市町とともに「リバーフレンドシップ制度」に基づく同意書を締結しており、湯日川においては同制度に基づき２団体が愛護活動を実施している。

【課題】
○今後、湯日川に対する関心や親しみを持った川と人との良好な関係を継続させ、引き続き、地域住民とともに良好な河川空間を活かした川づくりを進めていく必要がある。